本　会　会　報

学会だより

◇ 幹事会議事録

日時：2014 年 9 月 25 日（木）15：00 ～ 18：00
場所：南九州大学本館 1 階多目的教室
出席者：（計 38 名）吉村淳，堤伸浩，熊丸敏博，加藤清明，石川隆二，北柴大泰，笹沼恒男，高畑義人，石本政男，半田裕一，梅原三貴久，金子幸雄，岩田洋佳，二宮正士，矢野健太郎，吉田薫，掛田克行，中園幹生，松元哲，村井耕二，清水顕史，築山拓司，寺石政義，吉川貴徳，加藤鎌司，草場信，佐藤和広，一谷勝之，甲斐浩巨，松田靖，安井秀，最相大輔，宅見薫雄，宍戸理恵子，片山健二，犬飼義明，佐藤豊，今村順
委任状：（計 11 名）貴島祐治，三浦秀穂，中村俊樹，江面浩，小松田隆夫，矢野昌裕，山本俊哉，吉田均，川上直人，荻原保成，高牟禮逸朗
欠席者：（計 4 名）岩永勝，佐藤裕，三吉一光，富田因則

各常任幹事からの経過報告後，下記の議事が行われた．

（1）平成 26 年度学会賞選考について
- 「オオムギの栽培化に関する分子遺伝学的研究」小松田隆夫
- 「ダイズ種子成分の分子育種に関する研究」石本政男
- 「多収性・加工適正および穂発芽耐性に優れた北海道向け秋播コムギ品種「きたほなみ」の育成」（地独）北海道立総合研究機構北見農業試験場コムギ「きたほなみ」育成グループ（代表者：柳沢朗）

学会賞等選考委員会，幹事会の議を経て，以上の 3 件を選定した．

（2）平成 26 年度日本育種学会奨励賞選考について
- 「花成ホルモン・フロリゲンの機能に関する遺伝育種学的研究」辻寛之
- 「プロテオーム解析に基づくビール大麦品質選抜法の開発」飯牟禮隆
- 「イネにおける初期発生制御機構の分子遺伝学的研究」桧原健一郎

学会賞等選考委員会，幹事会の議を経て，以上の 3 件を選定した．

また，内規の改定について，編集委員の辞退と推薦について，平成 27 年度秋季大会（第 128 回講演会・第 57 回シンポジウム）開催地について議論され，了承された．

◇ 第 126 回講演会日本育種学会優秀発表賞

2014 年日本育種学会秋季大会（第 126 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 9 課題に決定された．

講演番号 605：新規ヒストン H4 アセチルトランスフェラーゼによる転写制御を介したイネ有用農業形質の制御機構の解明　○永井啓祐[1]・黒羽剛[1]・宋献軍[1,2]・綾野まどか[1]・南杏鶴[1]・芦苅基行[1]（1. 名古屋大・生物セ，2. 中国科学院）

講演番号 P021：野生イネ（*Oryza rufipogon*）の遺伝的背景における種子脱粒性遺伝子座間の相互作用と離層形態　○井上千鶴・Than Myint Htun・井上加奈子・池田健一・石井尊生・石川亮（神戸大・院・農学）

講演番号 P121：外来遺伝子防御システムを利用した導入遺伝子高発現組換えイネの作製　○小澤美沙・佐藤豊（名古屋大学大学院生命農学研究科植物遺伝育種学研究分野）

講演番号 418：Genotyping-by-Sequencing 法によるパンコムギ高密度連鎖地図の作製　○小林史典・金森裕之・田中剛・片寄裕一・呉健忠・半田裕一（生物研）

講演番号 110：65 個の QTL がコシヒカリ/IR64 間の粒形の違いを説明する　○永田和史[1]・安藤露[1]・野々上慈徳[1,2]・水林達実[1]・北澤則之[1]・正村純彦[1]・矢野昌裕[1,3]・福岡修一[1]（1. 生物研，2. 岩手県農業研究センター，3. 農研機構・作物研）

講演番号 104：*DRO3*，*DEEPER ROOTING 1* の遺伝経路上に見出されたイネ第 7 染色体の根伸長角度 QTL　○木富悠花・山本英司・菅野徳子・河合佐和子・水林達実・福岡修一・宇賀優作（生物研）

講演番号 303：ガンマ線緩照射による野生オオムギ突然変異集団の作製　○佐久間俊[1,2]・Pourkheirandish Mohammad[2]・中川仁[2]・小松田隆夫[2]（1. 横浜市大・木原生研，2. 生物研）

講演番号 P001：ニホンナシ複数 F1 集団を用いた果実形質のゲノミックセレクションモデルの構築　○南川舞[1]・小野木章雄[1]・寺上伸吾[2]・高田教臣[2]・齋藤寿広[2]・林武司[3]・山本俊哉[2]・岩田洋佳[1]（1. 東京大・院農学生命科学，2. 農研機構・果樹研，3. 農研機構・中央農研）

講演番号 P093：国内トマト F1 品種におけるゲノムワイド連関解析およびゲノミックセレクションの予測精度評価　○山本英司[1]・松永啓[1]・鈴木晶統[2,3]・南川舞[2]・鐘ヶ江弘美[2]・布目司[1]・山口博隆[1]・宮武宏治[1]・根来里美[1]・大山暁男[1]・岩田洋佳[2]・福岡浩之[1]（1. 農研機構・野菜茶研，2. 東大院農学生命科学，3. カネコ種苗（株））

◇ 日本育種学会第 126 回講演会選定課題記者会見報告

発表日時：平成 26 年 9 月 19 日（金曜）
会見場所：東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室
出席者：熊丸敏博，岩田洋佳

講演課題の中から選定された 5 課題について記者発表

を実施した.

（1）講演番号：103

「高温登熟条件における水稲玄米の背白粒発現に関わるQTL の実証」宮原克典・和田卓也・宮崎真行・園田純也・塚口直史・近藤始彦（福岡農林試，鹿児島農総セ，石川県大，作物研）

（2）講演番号：110

「65 個の QTL がコシヒカリ/IR64 間の粒形の違いを説明する」永田和史・安藤露・野々上慈徳・水林達実・北澤則之・正村純彦・矢野昌裕・福岡修一（生物研，岩手県農業研究センター，農研機構・作物研）

（3）講演番号：206

「強い雑種強勢を示すソルガム F1 品種「天高」の後代集団を用いた QTL 解析」山口未来・中村（荒木）聡子・伊藤裕介・篠原（大前）梢・松岡信・北野英己・春田重光・佐塚隆志（名古屋大農学部，名古屋大生物機能開発利用研究センター，信州大農学部 AFC）

（4）講演番号：P014

「国内初の LOX レス（リポキシゲナーゼ -1 欠失）ビール大麦品種「札育 2 号」の育成」金谷良市・斉藤渉・保木健宏・飯牟礼隆・廣田直彦・木原誠・蛸井潔・新開哲朗・谷川篤史・渡辺敬之・高澄耕次・大串憲祐（サッポロビール（株）バイオ研究開発部, サッポロビール（株）価値創造フロンティア研究所，サッポロビール（株）商品・技術イノベーション部）

（5）講演番号：P118

「ホップの高密度連鎖地図の構築と苦味含量に関する QTL 解析」上本允大•須田成志•大串憲祐（サッポロビール（株）バイオ研究開発部）

◇ 地域談話会だより

〈東北地区〉

第 9 回東北育種研究集会

2014 年 11 月 15 日（土）に第 9 回東北育種研究集会（大会委員長：高畑義人）が岩手大学農学部総合教育研究棟で開催されました．特別講演として，岩手生物工学研究センターの阿部陽氏から岩手県における水稲ゲノム育種の取り組みについて，また，岩手大学の吉川信幸氏から，植物ウイルスの機能を活用した果樹類の開花促進技術についての講演が行われました．ポスター発表は 32 題の講演があり，非常に活発な質疑応答がありました．今集会から優秀なポスター発表を表彰する制度を設け，27 題にエントリーがあり，そのうち 3 題のポスターが優秀ポスター賞として表彰されました．参加者は本集会が開催されて以来初めて 100 名を越え（101 名），本集会への関心の高さがうかがわれる大会となりました．

優秀ポスター賞受賞者は以下の 3 名です．おめでとうございました．

・平田諒 氏（山形大学農学部）

P-25：日本在来コムギ連野生遺伝資源カモジグサの形態及び分子マーカーに基づく多様性解析

・赤池隆亮 氏（山形大学農学部）

P-26：北コーカサスから採集された新規系統を含むタルホコムギ遺伝資源の製パン性評価

・高草木雅人 氏（岩手農研・県北研）

P-31：アワ EMS 突然変異集団の作出

開催の詳細は以下の通りです.

1. 日時：平成 26 年 11 月 15 日（土）13：00 ～ 17：00
2. 会場：岩手大学農学部総合教育研究棟（生命系）
   〒 020-8550 盛岡市上田 3-18-8
3. プログラム
   13：00　受付開始
   13：25　開会挨拶（開催校代表　岩手大学農学部 高畑義人）
   13：30　特別講演 1
   公益財団法人岩手生物工学研究センター
   阿部陽 氏
   「岩手県における水稲ゲノム育種の取り組み」
   14：30　ポスター発表
   14：30 ～ 15：10　偶数番号
   15：10 ～ 15：50　奇数番号
   16：00　特別講演 2
   岩手大学農学部　吉川信幸 氏
   「植物ウイルスの機能を活用した果樹類の開花促進技術」
   17：00　総合討論
   17：20　閉会
   17：30　優秀ポスター賞表彰式
   情報交換会
4. ポスター発表　☆：優秀ポスター賞エントリー発表者　○：発表者

P-1　世界のイネ・コアコレクション（WRC）における柱頭露出性
☆川出駿・鳥山欽哉（東北大・院農）

P-2　TILLING 法による低リノレン酸ダイズ突然変異系統の開発
○星野友紀[1]•渡辺啓史[2]•高木胖[2]•穴井豊昭[2]（1. 山形大学農学部，2. 佐賀大学農学部）

P-3　塩基置換および欠失特異的な切断活性を有する CELI の抽出と反応条件の検討
☆石川衿子[1]・阿部勝磨[1]・杉本和彦[2]・星野友紀[1]（1. 山形大学農学部，2. 農業生物資源研究所）

P-4　野生リンドウ 3 分類種の地域変異の比較
☆高橋由衣[1]•日影孝志[1,2]•渡辺修二[3]•斎藤靖史[1]•堤賢一[1]（1. 岩手大・農，2. 八幡平市花き研究開発センター，3. 岩手県立博物館）

P-5　ストレスが次世代のイネ穂ばらみ期耐冷性に及ぼす影響

☆河本健正・島影玲子・下野裕之・横井修司（岩手大学）

P-6 プロアントシアニジン特異的染色剤を用いたダイズ種皮着色物質の組織化学的観察
☆平岡未帆・松澤めぐみ・川崎通夫・千田峰生（弘前大学農学生命科学部）

P-7 黄ダイズ栽培集団中に見出された鞍掛突然変異体についての解析Ⅱ．鞍掛突然変異体と黄ダイズ間の F2 植物における鞍掛着色形質の分離について
☆佐藤孝誠[1]・菊池彰夫[2]・湯本節三[3]・千田峰生[1]（1. 弘前大学農学生命科学部，2. 農研機構・東北農研センター，3. 農研機構・作物研究所）

P-8 イネの低温苗立ち性の改良における QTL の集積効果
○佐藤知拡[1]・手塚耕一[1]・川本朋彦[2]・柴田智[2]・加藤和直[2]・髙橋竜一[2]・佐藤奈美子[3]・櫻井健二[3]・渡辺明夫[3]・高橋秀和[3]・赤木宏守[3]（1. 秋田県大院・生物資源, 2. 秋田県農試, 3. 秋田県大・生物資源）

P-9 イネの栽培品種におけるカドミウム耐性の解析
○宮川典子[1]・藤枝英里[2]・佐藤奈美子[2]・櫻井健二[2]・高橋秀和[2]・渡辺明夫[2]・赤木宏守[2]（1. 秋田県大院・生物資源，2. 秋田県大・生物資源）

P-10 開花期のイネの穂から放出される香気成分に関する分子遺伝学的解析
☆鎌田茉李恵・菅谷和音・堀雅敏・鳥山欽哉・風間智彦（東北大・院・農）

P-11 ‘恋ほのか’由来の胴割れ耐性遺伝子領域のマッピング
☆田村和雅・古家美紅・石川隆二（弘前大学農学生命科学部）

P-12 恋ほのか由来の胴割れ耐性に関する選抜系統の農業形質評価
☆古家美紅・田村和雅・石川隆二（弘大・農生）

P-13 次世代ゲノム情報を利用した易変異系統‘赤毛’に生じたトランスポゾン可動性の検証
☆原子淳哉・石川隆二（弘大・農生）

P-14 赤毛の自殖後代に生じた変異体下における *nDart* の可動性の TD による検証
☆宮本温海・原子淳哉・石川隆二（弘大・農生）

P-15 オーストラリアの野生イネ自然集団にみられる種間交雑集団の検出とその特性評価
☆外和昌大[1]・一谷勝之[2]・石川隆二[1]（1. 弘大・農生，2. 鹿大・農）

P-16 ベトナム野生イネ集団の遺伝的特性評価
☆田村紀子・石川隆二（弘大・農生）

P-17 タイ国内の野生イネ集団の多様性の比較
☆斎藤聖也[1]・Reunreudee Kaewcheenchai[2]・石川隆二[1]（1. 弘前大学農学生命科学部，2. Pracinburi Rice Research Center, Bureau of Rice Research and development, Rice department, Thailand）

P-18 ダイズにおける貧窒素栄養応答性 *MYB101* の遺伝子機能に関する研究
○長内勇志・村山聡美・櫛引はるか・赤田辰治（弘前大学農学生命科学部）

P-19 日本と韓国で同定されたダイコン（*Raphanus sativus* L.）の *S* ハプロタイプの照合
☆登内英美子[1]・岡本俊介[2]・坂本浩一[2]・北柴大泰[1]・西尾剛[1]（1. 東北大学大学院農学研究科，2. タキイ種苗）

P-20 シークワーサー全葉緑体ゲノム配列（予測）を利用した INDEL マーカーによる母系起源の多様性評価
石川隆二（弘前大学農学生命科学部）

P-21 プラズマ処理が受粉反応に及ぼす影響
☆辺本萌[1]・一ノ関留奈[2,7]・佐藤真由[3,7]・丹野ちぐさ[4,7]・増子（鈴木）潤美[1]・坂園聡美[1]・諏訪部圭太[5]・鈴木剛[6]・伊藤幸博[1,7]・日出間純[1,7]・高橋和貴[1,7]・安藤晃[1,7]・渡辺正夫[1,7]（1. 東北大学院，2. 秋田県立南高等学校，3. 山形県立西高等学校，4. 宮城県立仙台二華高等学校，5. 三重大学院生物資源，6. 大阪教育大学自然科学，7. 東北大学・飛翔型「科学者の卵養成講座」）

P-22 接ぎ木を利用したジャガイモ *Vacuolar Invertase*（*StVinv*）のエピ変異体獲得
☆北條初音・葛西厚史・原田竹雄（弘前大学農学生命科学部）

P-23 接ぎ木による篩管輸送 siRNA ドナーとなるタバコの作出
☆佐藤寿紀・北條初音・葛西厚史・原田竹雄（弘前大学農学生命科学部）

P-24 グルジアにおける在来コムギ遺伝資源の現状について
○笹沼恒男[1]・西田英隆[2]・Zezua Asanidze[3]・Tamar Bragvadze[3]・Olga N. Kovaleva[4]・Tamara N. Smekalova[4]（1. 山形大農，2. 岡山大院環境生命，3. イリア州立大，4. バビロフ研究所）

P-25 日本在来コムギ連野生遺伝資源カモジグサの形態及び分子マーカーに基づく多様性解析
☆平田諒・笹沼恒男（山形大学農学部）

P-26 北コーカサスから採集された新規系統を含むタルホコムギ遺伝資源の製パン性評価
☆赤池隆亮・柿崎彩佳・笹沼恒男（山形大農）

P-27 最上紅花及びベニバナ遺伝資源の花弁収量関連形質の評価
☆青柳沙緒莉・相澤由佳里・高橋優利佳・阿部利徳・笹沼恒男（山形大農）

P-28 *Brassica rapa* における小胞子胚形成関連遺伝子座上の候補遺伝子の多型および新たな候補領域の調査
☆金子育代[1]・田口久美子[1]・高畑義人[2]・西尾剛[1]・

北柴大泰[1]（1. 東北大院農学, 2. 岩手大学農学部）

P-29 種ゲノムデータを利用した SSR・INDEL マーカーによる種間多様性比較
☆郝茵[1]・石川隆二[2]（[1]岩手連大，[2]弘大農生）

P-30 ハクサイの露地越冬栽培を可能にする極晩抽性遺伝子の解析
☆北本尚子[1]・由比進[2]・西川和裕[3]・高畑義人[1]・横井修司[1]（1. 岩手大学農学部，2. 東北農研，3. （株）サカタのタネ）

P-31 アワ EMS 突然変異集団の作出
☆高草木雅人[1]・仲條眞介[2]・中西商量[1]・阿部陽[3]・高木宏樹[3]・寺内良平[3]（1. 岩手農研・県北研，2. 岩手農研，3. 岩手生工研）

P-32 シロイヌナズナにおける開花経路とストレス応答経路の統合に関わる因子の解析
☆後藤及美・高畑義人・横井修司（岩手大・農）

第 9 回東北育種研究集会の様子（特別講演の会場）

北柴大泰（東北大学農学研究院）

〈九州・沖縄地区〉

第 9 回日本育種学会九州育種談話会が，九州・沖縄地域の独法・公設研究機関で構成される「九州農表研究発表会」と「日本作物学会九州支部」との合同で，2014 年 9 月 4 日（木）に九州大学箱崎地区（文系講義棟）にて開催され，106 人が参加した．育種談話会としては，12 課題のポスター発表があり（合同開催としては 47 課題），育種談話会参加者のみならず，「九州農表研究発表会」及び「日本作物学会九州支部」の参加者とも活発な議論が交わされた．発表題目（ポスター発表形式）は以下のとおり．

（1）「ウンカ類に対するイネの抵抗性遺伝子資源の利用」安井秀[1]・藤田大輔[1]・吉村淳[1]・松村正哉[2]（1. 九州大学大学院農学研究院，2. 農研機構九州沖縄農業研究センター），（2）「イネ NBRP― イネ属の多様性を生かすリソース基盤の構築 ―」熊丸敏博[1]・安井秀[1]・吉村淳[1]・土井一行[2]・久保貴彦[3]・野々村賢一[3]・倉田のり[3]（1. 九州大院農, 2. 名古屋大農, 3. 遺伝研），（3）「植物性グリコーゲンを種子に高蓄積するイネ突然変異体の選抜及び解析」中村哲洋・熊丸敏博（九州大院農），（4）TILLING 法を用いたイネ Oleosin 変異体の選抜」松坂弘明[1]・橋本博之[2]・佐藤匡央[1]・熊丸敏博[1]（1. 九州大院農，2. 築野食品工業（株）），（5）「イネグルテリン前駆体を多量に蓄積する glup2 変異遺伝子の連鎖地図構築及び同変異体種子の組織学的解析」福田真子・村上孝裕・熊丸敏博（九州大学大学院・農），（6）「イオンビーム照射によって誘発されたイネ極晩生突然変異体 KGM25 の遺伝解析」西裕平[1]・田浦悟[2]・福徳康雄[3]・尾上昌平[1]・清水圭一[1]・橋本文雄[1]・坂田祐介[1]・佐藤宗治[1]・一谷勝之[1]（1. 鹿大・農学，2. 鹿大・遺伝子実験施設，3. 鹿大・アイソトープ総合センター），（7）「Gene action for yield and its components in barley」Ammar El-Akhdar and Toshihiro Kumamaru（Faculty of Agricultural, Kyushu University），（8）「ダイズにおける新規開花期関連遺伝子の探索」渡辺啓史[1]・山田哲也[2]・穴井豊昭[1]・石本政男[3]・加賀秋人[3]（1. 佐賀大農，2. 北大院農，3. 生物研），（9）「ダイズコアコレクションの GC-MS によるメタボローム解析」木村祐太・渡邊啓史・穴井豊昭（佐賀大学農学部），（10）「Solanum acaule を利用した青枯病抵抗性バレイショ育種素材の作出」波部一平[1]・大林憲吾[2]（1. 長崎県農林技術開発センター，2. 長崎県対馬振興局），（11）「バレイショ春作マルチ栽培における生育・収量特性と気象条件との関係」坂本悠[1]・森一幸[1]・渡邊亘[1]・向島信洋[2]・田宮誠司[3]・草原典夫[4]・中尾敬[1]（1. 長崎農林技開セ馬鈴薯，2. 長崎県央振興局，3. 北農研芽室，4. 長崎県農林部），（12）暗期中断処理により開花調節が可能な赤色夏秋小ギク新品種「長崎 SRC1」竹邊丞市[1]・峯大樹[2]（1. 長崎県農林技術開発センター，2. 長崎県島原振興局）

甲斐浩臣（福岡県農林業総合試験場）

受賞候補者募集の案内

◇ 第 56 回藤原賞受賞候補者の推薦について

公益財団法人藤原科学財団より，第 56 回受賞候補者の推薦依頼が届いています．推薦の対象は自然科学分野に属するもの．日本国籍を有するとともに日本在住であること．

推薦希望者は，**平成 27 年 1 月 5 日（月）**までに推薦書（電子ファイル）を電子メールにて庶務幹事・安井秀宛に送付して下さい．学会賞選考委員会で審査のうえ，該当者を会長名で推薦いたします．詳細については，藤原科学財団ホームページ（http://www.fujizai.or.jp）をご覧下さい．

安井秀　日本育種学会庶務幹事
E-mail: hyasu@agr.kyushu-u.ac.jp

日本育種学会会員異動（2014.7.21 ～ 2014.10.20）

◇ **普通会員入会**:矢野亮一（茨城），甲斐渉，渡辺翔（東京），澤田有司（神奈川），堀江智明（長野），SHELLEY ISRAT JAHAN，田崎三香子（愛知），TRAN DANG XUAN（広島）

◇ **学生会員入会**：木下乃梨子，杉澤駿，高畠聡史（北海道），小暮恵太（宮城），新井友輔，松本幸也（山形），福本庄馬，水野陽介（茨城），堤拓也（群馬），熊坂裕太郎，小林久美子，島野里美，デックロン プンヤビー，福井銀河，藤田卓磨，水野泉（東京），吉野幸則（神奈川），上原奏子，黒川裕介，柴田晃秀，朱新昊，平川嵩久，藤本榛香，保崎翼（愛知），茨木亮多，大森健人，金山純子，山本夕貴（京都）

住所変更等

◇ **普通会員**：氷見英子（岩手），矢野昌裕（茨城），辻耕治（千葉），谷口郁也（東京），佐野直人（神奈川），西内俊策（愛知），岡本充智（愛媛），伊東栄作（宮崎），遠藤隆（チェコ）

逝去

日向康吉氏（宮城）

慎んでご冥福をお祈りいたします.